

有志舎の新刊です。2022年10月下旬刊行

近代朝鮮の甲午改革と王権・警察・民衆

伊藤俊介 著

A5判・ハードカバー・220ページ 本体価格 4,800円

日本からの侵略と外圧の中で、近代朝鮮が目指した「近代化」とは何だったのか。

政府要路や権力側にとっての改革だけではなく、民衆にとっての「改革」「近代」の意味も問い直す。

【目次】

- 序章 甲午改革における「近代」への視角
- 第一章 甲午改革と王権構想
- 第二章 甲午改革以前の警察機構と開化派の警察構想
- 第三章 甲午改革と警察制度改革
- 第四章 警察と民衆
- 第五章 警察制度改革と警察官吏
- 第六章 断髮令と民衆蜂起
- 終章 甲午改革の本質的性格

〈著者紹介〉伊藤俊介（いとう しゅんすけ）：1975年生まれ、福島大学教授、朝鮮近代史専攻。

～版元から～ 甲午改革——それは日清戦争期から1896年2月に朝鮮国王・高宗がロシア公使館に逃避するまで、朝鮮政府によって行われた一連の近代化推進運動です。朝鮮が制度改革を通して自国の近代化を目指す契機となったこの改革とは何だったのか？ 朝鮮固有の歴史的文脈の中から「近代の在り方」を見つめ直し、改革を実際に行った権力側の分析と同時に、警察と民衆の関係の中から、この改革の意味を「下から」捉え直すことで、甲午改革の持つ本質的性格を追究。政治史のみならず民衆史の視点から朝鮮社会にとっての近代の意味を考えます。

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-19-2 クラブハウスビル1階 (有)有志舎 電話:03-5929-7350

番線印	ご注文	発行：有志舎	分野
	冊	近代朝鮮の甲午改革と 王権・警察・民衆 伊藤俊介 著 A5判・ハードカバー、220ページ 本体価格 4,800円 ISBN 978-4-908672-60-6 C3022	朝鮮史（近代）
	ご担当 様		弊社はいつでも返品を受け付けていますが、逆送のご心配がある場合は、「永滝 了解」として返品下さい。

ご注文は (株)JRC へ

返品条件付注文です。